

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-238347

(P2003-238347A)

(43)公開日 平成15年8月27日(2003.8.27)

(51)Int.Cl.⁷

A 6 1 K 7/00

識別記号

F I

マーク(参考)

A 6 1 K 7/00

L 4 C 0 8 3

F

W

7/48

7/48

審査請求 未請求 請求項の数15 書面 (全 6 頁)

(21)出願番号

特願2002-87187(P2002-87187)

(22)出願日

平成14年2月18日(2002.2.18)

(71)出願人 501206493

株式会社ナノデバイス・システム研究所
京都府京都市中京区笠屋町436番地

(72)発明者 飛永 芳一

滋賀県大津市清風町20番8号

(72)発明者 杉山 進

愛知県名古屋市天白区島田黒石604番地

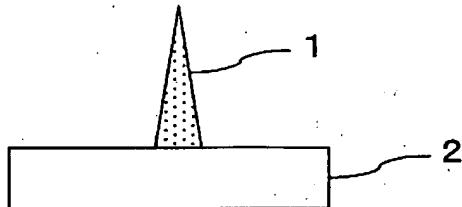
Fターム(参考) 4C083 AD09 AD21 CC02 DD50 EE10
EE11 EE13 EE17

(54)【発明の名称】 機能性マイクロバイル及びその製造方法

(57)【要約】

【課題】皮膚の変質部あるいは変色部を化学的に改善する、又は物理的に覆い隠すことによってそれらが視覚認知されないようにすることを目的に、日常生活において、皮膚又は皮膚角質層への機能（着色化、美麗化、紫外線防御化等）付与の際に、無痛状態にて、皮膚機能再生行為における簡便性、安全性、効率性を大きく向上させることべく、機能性マイクロバイル及びその製造方法を提供すること。

【解決手段】主成分素材が生体内において溶解、消失する糖質からなる柱状バイルを基板に設けた、かつ機能性物質を内包及び／又は含有した構造であり、皮膚に接触させることにより、皮膚角質層内に到達する経路を設けて機能性物質を、無痛状態にて、簡便に、安全に、効率的に、角質層に限定して挿入することが可能な機能性マイクロバイル及びその製造方法。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 一辺又は直径が0.1～100μmの正方形又は円形の断面形状であり、長さが0.5～500μmの正方柱状、又は円柱状のバイルを基板上に設けた構造を有すること、を特徴とする機能性マイクロバイル。

【請求項2】 一短辺又は短直径が0.1～100μmの長方形又は楕円形の断面形状であり、長さが0.5～500μmの長方柱状、又は楕円柱状のバイルを基板上に設けた構造を有すること、を特徴とする機能性マイクロバイル。

【請求項3】 主成分素材が生体内において溶解、消失する糖質からなる該方柱状、又は該円柱状のバイルであること、を特徴とする請求項1又は2記載の機能性マイクロバイル。

【請求項4】 機能性物質を内包及び／又は含有した該マイクロバイルを、皮膚に接触させることにより皮膚角質層内に到達する経路を設けて該機能性物質を角質層に限定して挿入すること、を特徴とする請求項1～3記載の機能性マイクロバイル。

【請求項5】 長方形又は楕円形の断面形状にすることにより、折れる方向性を制御することができる請求項2～4記載の機能性マイクロバイル。

【請求項6】 該マイクロバイル中間部にくびれ部を設け、該くびれ部において容易に折れて該マイクロバイル先端部のみが皮膚角質層内に残留すること、を特徴とする請求項1～5記載の機能性マイクロバイル。

【請求項7】 該マイクロバイル中間部に細い上部バイルと太い下部バイルとに分けて段差を設け、該段差部において容易に折れて該上部バイルのみが皮膚角質層内に残留すること、を特徴とする請求項1～5記載の機能性マイクロバイル。

【請求項8】 該マイクロバイル先端がナイフ形状であり、皮膚角質層内に容易に挿入され得ること、を特徴とする請求項1～7記載の機能性マイクロバイル。

【請求項9】 機能性物質を封入したマイクロコンテナを該マイクロバイル内部に設けた構造を有すること、を特徴とする請求項1～8記載の機能性マイクロバイル。

【請求項10】 該マイクロバイル先端に矢じり形状部を設け、該矢じり形状部内に該マイクロコンテナを有し、皮膚に接触後抜き取る際に、戻り針効果により該矢じり形状部において容易に折れて、該マイクロコンテナのみが皮膚角質層内に残留すること、を特徴とする請求項9記載の機能性マイクロバイル。

【請求項11】 該マイクロバイルの中心軸に沿ってキャビラリー空洞部を設けた構造を有し、該空洞部に機能性物質を内包させ得ること、を特徴とする請求項1～8記載の機能性マイクロバイル。

【請求項12】 複数本の該機能性マイクロバイルを基板上に配置することにより、皮膚角質層内に該機能性物

質の残留量を制御し得る構造を有すること、を特徴とする請求項1～11記載の機能性マルチマイクロバイル。

【請求項13】 該マイクロバイルを微細加工する際のX線露光において、基板面よりの反射光によって起こる該マイクロバイル底面の過露光現象を防止するために、該マイクロバイル底部面積より大きい柱状反射防止台を設けた構造を有すること、を特徴とする請求項1～12記載の機能性マイクロバイル。

【請求項14】 請求項1～13記載の機能性マイクロバイルの製造工程が、(a) X線感光性樹脂にシンクロトロン放射X線を照射してマイクロバイルパターンを形成するX線リソグラフィー工程、(b) 該マイクロバイルパターンの反転形状を電鋳加工してマイクロバイル用鋳型を作製する鋳型製作工程、(c) 該マイクロバイル用鋳型を基に機能性物質含有素材を射出成形して機能性マイクロバイルを形成する射出成形工程、(d) 該機能性マイクロバイルの製品化に供する外装組立工程、の各製造工程からなること、を特徴とする機能性マイクロバイルの製造方法。

【請求項15】 該X線感光性樹脂がポリメチルメタクリレート(PMMA)を含む樹脂であること、を特徴とする請求項14記載の機能性マイクロバイルの製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、皮膚表層及び／又は皮膚角質層において、簡便に、安全にかつ効率的に修飾効果及び／又は機能効果を与えるための治具である機能性マイクロバイル、更にはその機能性マイクロバイルの製造方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、生体表面、即ち皮膚や粘膜等に、修飾効果や機能効果を与える技術としては、主に液状物質あるいは粉粧を塗布することがほとんどであった。機能の対象が生体表面上に限られていたため、発汗、洗浄、不本意な異物接触、気象条件等々によって機能が消失し、毎日の機能再生行為が必要であった。しかも、人手によるためその機能再現性にも限界があり、機能再生行為においては簡便性、安全性、効率性のすべてに劣っていたものと解される。また、皮膚深く浸透させることを目的とした溶液においては、拡散等の浸透現象に依存しているので、その浸透深さを確実に制御することは困難であったと言える。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 前述の機能再生行為における簡便性、安全性、効率性が重要課題であるが、例えば、日常生活において、皮膚への機能付与に費やす時間と労力もさることながら、皮膚角質変質に対処する行為は、かなり困難を極める。化学的あるいは栄養学的に皮膚変質部を消去する試みは多様な方法によって進めら

れているが、変質自体が複雑な生体現象の表象であり、老化進行にもかかわる問題で過去はもとより未来永遠に抱える日常の恒久的な課題である。

【0004】

【課題を解決するための手段】本特許は、皮膚の変質部あるいは変色部を化学的に改善する、又は物理的に覆い隠すことによってそれらが視覚認知されないようにすることが目的である。そこで、本発明者らが鋭意研究開発を行った結果、微細な機能性マイクロバイルを発明し、これにより、従来困難とされてきた、皮膚表層及び／又は皮膚角質層において、無痛状態下で、簡便に、安全にかつ効率的に修飾効果及び／又は機能効果を与えることに成功した。更にはその機能性マイクロバイルの、効率的な製造方法をも発明し、機能性マイクロバイルの工業生産化を達成し得たものである。

【0005】上記マイクロバイルを使用した皮膚への機能施行行為において、粉黛などの機能性物質を混入したマイクロあるいはナノサイズの微細な機能性バイルを皮膚に軽く押し付けることによって機能性物質を皮膚角質層に限定して無痛状態下で残留させると、皮膚新陳代謝による皮膚角質交替の間、即ち1週間から10日間において、安定して残留させることができる。これによって、日々再々、皮膚機能施行をやり直す必要がなく、日常生活時に簡便性を提供することができる。次に、マイクロバイルの構成素材を糖質とすることにより、皮膚角質層内に、又は誤って深く挿入し過ぎて血管内にマイクロバイルが残留したとしても、即時に糖質マイクロバイルが溶解するので極めて安全である。更には、機能性マイクロバイルの構造を種々に設計することにより、皮膚角質層内に意図して無痛状態下で残留させることができ十分に可能であり、また複数本のマイクロバイル構造とすることにより、一度の皮膚接種でも機能性物質の残留量を制御することが可能で、それ故に効率性も十分に向上する。

【0006】マイクロマシンの分野において、 μm サイズあるいはそれ以下の高精度加工ができるプロセス技術がすでに確立しているが、本発明では、この技術を応用して、 $\text{nm} \sim \mu\text{m}$ サイズの皮膚挿入治具機構を実現し得た。従って、切ること、挟むこと、貫通すること、保持すること、等々のような基本的な物理的機構を創出することができ、高精度で簡便に皮膚角質層に作用することができた。特に本発明では、特願2000-347103号公報（発明の名称：「X線を用いた材料の加工方法及びその装置」）に開示された微細加工技術を更に発展させ、シンクロトロンから発生する極短波長のX線を応用して nm サイズの高精度加工をも容易にした。

【0007】すなわち、本発明を要約すると、その主旨は、(1)一辺又は直径が $0.1 \sim 100 \mu\text{m}$ の正方形又は円形の断面形状であり、長さが $0.5 \sim 500 \mu\text{m}$

の正方柱状、又は円柱状のバイルを基板上に設けた構造を有すること、を特徴とする機能性マイクロバイル、並びに、(2)一辺又は短直径が $0.1 \sim 100 \mu\text{m}$ の長方形又は梢円形の断面形状であり、長さが $0.5 \sim 500 \mu\text{m}$ の長方柱状、又は梢円柱状のバイルを基板上に設けた構造を有すること、を特徴とする機能性マイクロバイル、並びに、(3)主成分素材が生体内において溶解、消失する糖質からなる方柱状、又は円柱状のバイルであること、を特徴とする上記(1)又は(2)の機能性マイクロバイル、並びに、(4)機能性物質を内包及び／又は含有した該マイクロバイルを、皮膚に接触させることにより皮膚角質層内に到達する経路を設けて機能性物質を角質層に限定して挿入すること、を特徴とする上記(1)～(3)の機能性マイクロバイル、並びに、(5)長方形又は梢円形の断面形状にすることにより、折れる方向性を制御することができる上記(2)～(4)の機能性マイクロバイル、並びに、(6)マイクロバイル中間部にくびれ部を設け、くびれ部において容易に折れてマイクロバイル先端部のみが皮膚角質層内に残留すること、を特徴とする上記(1)～(5)の機能性マイクロバイル、並びに、(7)マイクロバイル中間部に細い上部バイルと太い下部バイルとに分けて段差を設け、段差部において容易に折れて上部バイルのみが皮膚角質層内に残留すること、を特徴とする上記(1)～(5)の機能性マイクロバイル、並びに、(8)マイクロバイル先端がナイフ形状であり、皮膚角質層内に容易に挿入され得ること、を特徴とする上記(1)～(7)の機能性マイクロバイル、並びに、(9)機能性物質を封入したマイクロコンテナをマイクロバイル内部に設けた構造を有すること、を特徴とする上記(1)～(8)の機能性マイクロバイル、並びに、(10)マイクロバイル先端に矢じり形状部を設け、矢じり形状部内に該マイクロコンテナを有し、皮膚に接触後抜き取る際に、戻り針効果により矢じり形状部において容易に折れて、マイクロコンテナのみが皮膚角質層内に残留すること、を特徴とする上記(9)の機能性マイクロバイル、並びに、(11)マイクロバイルの中心軸に沿ってキャビラリー空洞部を設けた構造を有し、空洞部に機能性物質を内包させ得ること、を特徴とする上記(1)～(8)の機能性マイクロバイル、並びに、(12)複数本の機能性マイクロバイルを基板上に配置することにより、皮膚角質層内に機能性物質の残留量を制御し得る構造を有すること、を特徴とする上記(1)～(11)の機能性マルチマイクロバイル、並びに、(13)マイクロバイルを微細加工する際のX線露光において、基板面よりの反射光によって起るマイクロバイル底面の過露光現象を防止するために、マイクロバイル底部面積より大きい柱状反射防止台を設けた構造を有すること、を特徴とする上記(1)～(12)の機能性マイクロバイル、並びに、(14)上記(1)～(13)の機能性マイクロバ

イルの製造工程が、(a) X線感光性樹脂にシンクロトロン放射X線を照射してマイクロバイルパターンを形成するX線リソグラフィー工程、(b)マイクロバイルパターンの反転形状を電鋳加工してマイクロバイル用鋳型を作製する鋳型製作工程、(c)マイクロバイル用鋳型を基に機能性物質含有素材を射出成形して機能性マイクロバイルを形成する射出成形工程、(d)機能性マイクロバイルの製品化に供する外装組立工程、の各製造工程からなること、を特徴とする機能性マイクロバイルの製造方法、並びに、(15) X線感光性樹脂がポリメチルメタクリレート(PMMA)を含む樹脂であること、を特徴とする上記(14)の機能性マイクロバイルの製造方法、に関するものである。

【0008】

【発明の実施形態】以下に、本発明における機能性マイクロバイルの実施形態について説明するが、本発明は以下の実施形態について何ら限定されるものではない。

【0009】本機能性マイクロバイルは、機能粉黛を皮膚角質層の限って挿入する高精度の技術を提供するものである。目的の機能物質を十分に提供するために、多数のマイクロバイルを設けた基板として使用する。例えば、1cm正方形の基板上に1万個以上の機能性マイクロバイルを皮膚上に軽く叩くようにスタンプ押しを行うことによって、マイクロバイル内に混在させた機能性物質を皮膚角質内に挿入でき、所定機能を皮膚角質で発揮することが好ましい。また、単体のマイクロバイルの形状は、特に限定されないが、正方柱状、長方柱状、円柱状、楕円柱状、それらの錐状などが好ましい。

【0010】目的の機能施行行為を行う場合、特に限定されないが、機能性マイクロバイルの先端だけに機能性物質を付加しておいて行うことが好ましい。

【0011】また、別の例として、特に限定されないが、簡易テープ上にマルチ機能性マイクロバイルを配置したものを提供する。機能性マイクロバイルを皮膚に接する方に向けて貼り付けることによって、目的の機能施行行為を行うことが好ましい。

【0012】本発明で使用する機能性マイクロバイル及びマイクロコンテナの材料は、特に限定されないが、マルトースのようなすでに実用化されている糖素材を主成分素材として利用することができる。

【0013】本発明で使用する糖質性機能性マイクロバイルの表面は、特に限定されないが、撥水性にして水分の浸透を避けることができれば良く、大気中の湿気による軟化を防ぐことができる構造が好ましい。

【0014】本発明で使用する機能性マイクロバイルに混在させる機能性物質は、特に限定されないが、水溶性の粉黛であること好ましく、また医療用に使用されている硫酸バリウムのような実施済の機能粉黛を利用することができる。

【0015】本発明で使用する機能性マイクロバイルの

使用対象は、特に限定されないが、顔面や手足等の露出する対表面の部分が好ましい。

【0016】本発明で使用する機能性マイクロバイルの基板としては、特に限定されずに、X線感光樹脂であることが好ましく、具体的にはPMMA(ポリメチルメタクリレート)を含むX線感光性樹脂が好ましく、製造工程におけるX線、熱等の物理化学的負荷に耐え得る素材が好ましい。更には、機能性マイクロバイルの基板を全体支持するものとしては、特に限定されないが、紺創膏や医療用テープ等の粘着性テープ状支持材が好ましい。

【0017】本発明における機能性マイクロバイルの製造方法については、先ず初めに、シンクロトロン放射X線を、PMMAを含むX線感光性樹脂基板に特定のパターンをもつマスクを通して照射した後、現像することによって照射部を除去してマスターパターンを製作する。次に、そのマスターパターンの反転パターン形状である鋳型を電鋳工程等によって製作する。その後、その鋳型の反転パターンあるいはマスターパターンと同形のパターンである製品あるいは機能性マイクロバイルを射出成型する。射出成型時に機能性物質を混在した糖分を成型材として使用する。

【0018】すなわち、本製造方法は、(a) X線感光性樹脂にシンクロトロン放射X線を照射してマイクロバイルパターンを形成するX線リソグラフィー工程、(b)マイクロバイルパターンの反転形状を電鋳加工してマイクロバイル用鋳型を作製する鋳型製作工程、(c)マイクロバイル用鋳型を基に機能性物質含有素材を射出成形して機能性マイクロバイルを形成する射出成形工程、(d)機能性マイクロバイルの製品化に供する外装組立工程、の各製造工程からなることを特徴とする機能性マイクロバイルの製造方法である。

【0019】

【実施例】以下に本発明について実施例により具体的に説明する。但し、本発明は以下の実施例に何ら限定されるものではない。

【0020】実施例1

顔面一部に発生した変質部あるいは変色部を覆い隠すために本発明のマルチ機能性マイクロバイルを使用する。被験者の皮膚と同系色の機能粉黛を混合した機能性マイクロバイルを本発明の製造方法により作製することによって目的を果たすことができる。覆い隠すべき面積が広い場合には、複数個の使用によって容易に目的を果たすことができる。そのサイズは、皮膚角質層の厚さは標準として100μm以上300ミクロン以下であるので、機能性マイクロバイルの高さは50μmから70μmは適切で、その先端は5μm以下にすると十分に無痛に使用することができる。そこで、一辺1cm四方の正方形基板をPMMA材質とし、その基板上に、直径が10μm、長さが60μmの円柱状のマルトース製バイル(被験者の皮膚と同系色の機能粉黛を20重量%混合したもの

の)を本製造方法にて1万個作成した。これを被験者の顔面アザ部に軽く押し当てた状態で、軽くポンポンと10回程手で叩き、顔面アザ部から基板を外した。その結果、アザ部のうち、一辺1cm四方の部分についてアザが簡便に視覚より消失した。尚、被験者の感想では、「上記実施行為中は全く無痛」とのことであった。

【0021】実施例2

最近、大病院において患者の取り違え事故が目立つようになっている。特に新生児の取り違えは、ただならぬ悲劇をもたらすものである。何らかの目印が体表面にあれば、このような事故は容易に防ぐことができると考える。よく、リボン、ペン書き、ラベル、等々のように取り付ける目印が使われるが、患者自身の行動によって失うことともたびたびである。もし、皮膚角質層に目印を埋め込むことできれば、患者のいかなる行動においても安定に表示を残留保持できる。このように患者取り違え事故防止用には、記号表示機能をもつマルチ機能マイクロバイルは極めて有効である。そこで、一辺0.5cm四方の正方形基板をPMMA材質とし、その基板上に、直径が20μm、長さが70μmの円柱状のマルトース製バイル(食紅を15重量%混合したもの)を本製造方法にて2500個作成した。これを被験者である新生児の足裏の土踏まず部に軽く押し当てた状態で、軽くポンポンと10回程手で叩き、土踏まず部から基板を外した。その結果、土踏まず部に、一辆0.5cm四方の赤色部が簡便に着色できた。被験者である新生児は、上記実施行為中は安眠状態にあった。尚、着色した赤色部は、約2ヶ月後に完全に消失した。

【0022】実施例3

芸能業界では、演劇用化粧の改良が絶えず加えられているほど、改良、改善の激しい分野であるが、化粧技術でも、再現性に対する要求が非常に高い。本発明による方法によって簡便に、再現よく、素早く、化粧ができる方法を提供する。従来方法の対表面塗布の方法と重ねて使用すれば、新しい表現方法の提供も可能であり、新しい芸能文化の創出の支援もできる。そこで、直径が0.3cmの円形基板をPMMA材質とし、その基板上に、直径が15μm、長さが60μmの円柱状のマルトース製バイル(墨汁を10重量%混合したもの)を本製造方法にて3000個作成した。これを被験者の手の甲に軽く押し当てた状態で、軽くポンポンと10回程手で叩き、手の甲から基板を外した。その結果、手の甲に、直径0.3cmの円形ホクロを簡便に作成できた。被験者の感想では、「上記実施行為中は、全く痛みを感じなかった」とのことであった。尚、上記ホクロは、約3ヶ月後に完全に消失した。

【0023】実施例4

一般に日焼け止め用として顔面に塗布する化粧粉黛が利用されているが、発汗、異物接触、等々によって簡単に取れてしまい、効用を失うことがしばしばある。本発明

のマルチ機能性マイクロバイルによって日焼け止めを顔面あるいは体内に浅くでも埋め込むことができれば、数日間、確実にその効用を持続することができるるので、従来の塗布型機能品よりはるかに効力を發揮することができる。そこで、直径が1cmの円形基板をPMMA材質とし、その基板上に、直径が10μm、長さが70μmの円柱状のマルトース製バイル(有機系紫外線遮蔽剤であるバルソールMCXを1重量%混合したもの)を本製造方法にて5000個作成した。これを被験者の手の甲に軽く押し当てた状態で、軽くポンポンと10回程手で叩き、手の甲から基板を外した。その後1ヶ月間、被験者に屋外にて手の甲を直射日光に自然照射してもらい、手の甲の日焼け度合いを調べた。その結果、手の甲に、直径1cmの円形部が、その周りの部分に比して、日焼けしていないことが判明した。被験者の感想では、「上記実施行為中は、全く痛みを感じず、実施行為部は日焼けによる痛みも感じなかった」とのことであった。尚、上記の日焼け止め効果は、約2.5ヶ月後に無くなった。

【0024】

【発明の効果】本発明によれば、着色材等の機能粉黛、紫外線吸収材等の機能液体等、の機能性物質を混合した微細な機能性マイクロバイルを用いると、そのマイクロバイルの先端部又は一部を皮膚内に残留させることによって皮膚角質層への機能性物質を挿入することができる。その残留したマイクロバイルの素材は、糖質であるため生体に無害である。しかも、その皮膚角質内の機能は数日間～数ヶ月間保持することができる。更には皮膚角質層内に、無痛状態で、安全に、効率的に、簡便に、機能性物質を挿入させることが十分に可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の請求項1における単体バイルの機能性マイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図2】本発明の請求項6におけるくびれ部を有する機能性マイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図3】本発明の請求項7における段差を有する機能性マイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図4】本発明の請求項2における非対称断面機能性マイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図5】本発明の請求項9におけるマイクロコンテナを有する機能性マイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図6】本発明の請求項11におけるキャビラリー空洞部を有するマイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図7】本発明の請求項12における機能性マルチマイクロバイルの一例を示す概略図である。

【図8】本発明の請求項13における反射防止台を有するマイクロバイルの一例を示す概略図である。

【符号の説明】

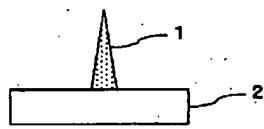
9

10

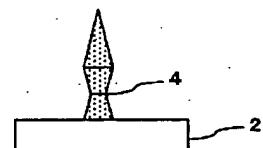
2 基板
3 段差部
4 くびれ部

* 5 マイクロコンテナ部
6 キャビラリー部
* 7 X線反射防止台

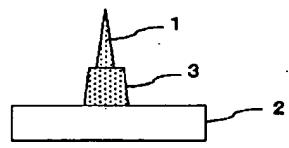
【図1】



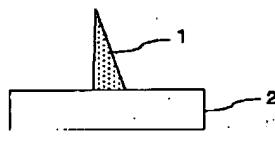
【図2】



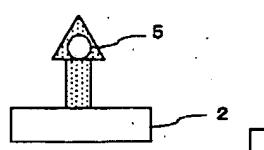
【図3】



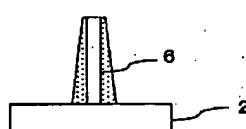
【図4】



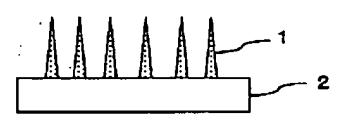
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

